

2月22日(月曜日)

ドル/円

## バーナンキFRB議長の議会証言を意識

### 19日(金)の主な推移

ダウ平均株価

10402.35ドル  
(+9.45ドル)

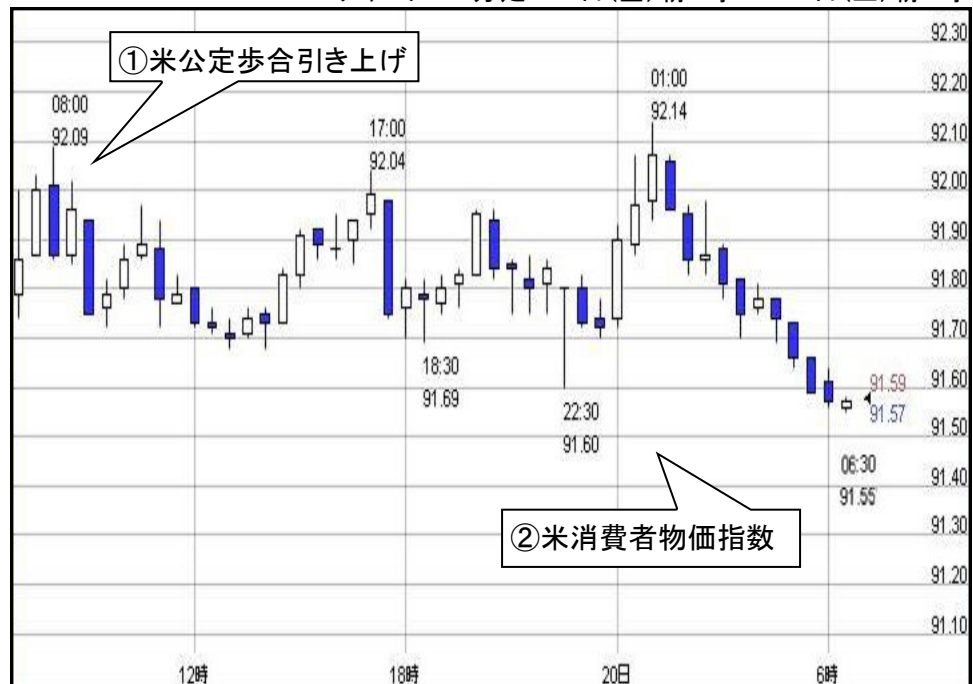
米長期金利  
(10年債利回り)

3.7764%  
(-0.0305%)

NY原油先物

79.81ドル  
(+0.75ドル)

チャート: 30分足 19日(金)朝7時 ~ 20日(土)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所: 外為どっとコム

①

19日午前6時半過ぎに米連邦準備制度理事会(FRB)が公定歩合の0.25%引き上げを発表したことを受け、午前8時過ぎにドル/円は92.09円まで上昇した。しかしその後、ブロード・セントルイス連銀総裁やロックハート・アトランタ連銀総裁が米公定歩合の引き上げは必ずしも政策金利の早期引き締めを意味しないと相次いで語ったことから、市場は早期の利上げはないと判断し、ドル円は91円後半でのみ合いとなった。

②

米1月消費者物価指数が前月比+0.2%と市場予想の+0.3%を下回る結果となり、早期の利上げ観測が後退したことで、発表直後にドル/円は91.60円まで下落。このことによりユーロ/ドルが急上昇し、ユーロ円も上昇したことでドル/円も連れ高となり、日本時間20日の午前1時過ぎにはドル/円も92.14円まで反発した。しかし米長期金利が低下したことや、92円台での利食い売りに押されたことで、ドル/円は当日の安値圏で引けた。

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.70-92.30円

本日は主だった経済指標や要人発言が予定されておらず、手掛かり材料難の展開が予想される。先週金曜の早朝に米公定歩合が引き上げられたものの、地区連銀総裁が相次いで早期利上げ観測をけん制する発言を打ち出したことで市場では材料一巡となり、NY時間は大きな手がかりにはならなかった。そのため市場では早くも今週24・25両日に予定されているバーナンキ連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言に注目が集まっている。仮に証言内容が景気回復に楽観的な見方を示したり、今後の利上げを匂わす発言が出た場合、市場ではドル買いに傾くと見られ、ドル/円は一段と上値を試す展開が予想される。

なおテクニカル面では先週金曜に200日移動平均への接近が見られた(本日は92.26円に位置)。しかし2007年に高値124.12円を付けて以降、200日移動平均線は下向きとなっている。引き続きこのレベルでの攻防に注目したい。

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/22(月)			特になし	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com